

2面…保育付き女性講座ほか主催事業、自習室登録受付中、柳フェス準備会開催ほか
3面…ジョイントコンサート、ちいさな展示会、公民館市民企画事業、市民レビュー♪CDほか
4面…サークルから、公運審コラム、まちがいさがしほか

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



西崎信夫さん 15歳ころ

戦後70年近く経た今、戦争体験について話を聞く機会が失われつつあります。市内にも戦争の重い記憶を背負って生きてきた人たちがいます。公民館だよりでは、年若い兵士として従軍したお二人に話を聞きました。今月号では、下保谷にお住まいの西崎さんのお話を掲載します。平和とは何か、考える素材になればと思います。

15歳、海軍特別年少兵

西崎信夫さんは昭和2年1月、三重県生まれ。村から一人推薦を受け海軍特別年少兵としてスパルタ教育を受けました。教育期間中は、夜も灯りを求めて便所を勉強する日々でした。海軍特別年少兵制度は、昭和16年に創設された若年の志願兵制度で、中幹部の養成を目的としていました。初めは15歳、さらに年齢が引き下げられ14歳から16歳の少年が集められました。

18歳、死を覚悟の戦いへ

16年12月の初戦から終戦までほぼ無傷で戦闘を続けたことから「奇跡の駆逐艦」「海の狼」と呼ばれていました。

雪風被弾、今も痛み傷痕

翌7日午前、艦隊は敵機に発見され爆撃を受けます。九州南方、坊ノ岬沖のことです。西崎さんは「雪風」の魚雷発射室内にいましたが、それでも敵機が迫ってくる空気を感ぜました。視界に入らないだけにけいこに恐ろしかったと言います。左太ももに焼け火箸が3本刺さったような感覚に貫かれました。恐ろしに被弾したのです。貫通銃創でした。先に撃たれていた上官に重なって倒れました。上官は胸を撃ち抜かれていてあばら骨が見えました。部下の肩を借り診療所に向かいました。そこはつめき声、家族の名や「お母さん」と呼ぶ声に満ちていました。重傷者が多

今あらためて平和について考える
駆逐艦「雪風」
ゆきかぜ
その1
ともじ



西崎信夫さん(87)
下保谷 在住

た書きませんでした。母親に「何はともあれ生きて帰ってこい」と言われていました。出撃は午後3時20分と発表されました。のどが渇き動悸がし、父親の形見の時計の音が自分の命を刻んでいるようだったのを今も忘れません。下着からすべて着替え、手帳一つを除いて私物はすべて捨てました。同僚たちも荷物を全て捨てていました。やがて「大和」にZ旗*が揚がり、一斉に各艦の銅鑼が鳴りました。

わが街をもっと知りたくて
古里に「緑」をそだて
西東京市と縁結び

栃木県足尾(現日光市)生まれの青木幹夫さん(80歳・新町在住)は「足尾に緑を育てる会」と「足尾歴史館」の二つのNPO法人で役員と楽迎員(歴史館での案内・説明担当)として活動しています。足尾は、銅山開発による鉱害で、山々は枯れ果てました。その足尾に、百万本の木を植えよう、を合言葉に結成されたのが「足尾に緑を育てる会」です。昨年は東京都や関東近郊のボランティア、植樹体験学習を目的とした小学生から高齢者までの約1万4千人の手で、約2万3千本の苗木が植えられました。春の植樹祭から始まり、11月まで山の手入れをしたり、足尾歴史館で楽迎員として対応したりで、青木さんは、

く、看護兵の手が回りません。西崎さんは自分の脚に弾丸が刺さっているのを確認しますが、自分で抜くように言われ、ガーンと鉗子とピンセットを渡されます。覚悟を決めて深呼吸を5、2面につづく

*水上特攻作戦…「大和」と軽巡洋艦1隻、「雪風」を含め駆逐艦8隻の第2艦隊は、沖縄に赴く予定でした。沖縄本島で砲撃を行い、帰還することはないとされてきました。

*Z旗…もともとは国際信号旗の一つ。第2次世界大戦中の日本海軍では、重要な海戦にあたって掲揚することが慣例化しました。



農場博物館に寄贈されたトロッコ

「トロッコ」から
西東京市と足尾歴史館を結んだのはトロッコでした。東大大学院生態調和農学機構(東大農場)には、かつて乳牛、豚などのえさを運搬するためのトロッコ軌道が敷設されていました。トロッコは一旦は失われてしまいましたが、再度復活させたいと考えた場内の農場博物館が、軌道の合う旧型トロッコを探したものの、なかなか入手ができず困っていたのです。そんな中、足尾歴史館に保存されていたトロッコがその軌道に合うことがわかり、青木さんの尽力もあって、足尾歴史館から寄贈

されました。(このことは、平成24年4月8日付の朝日新聞にも掲載されました)
青木さんは、「東大フィールドボランティア」や、市内の登山会とともに足尾を訪れ、西東京市と足尾をつなぐ活動をしています。

夏休みのこの時期、植樹とトロッコ列車を体験しに、足尾に出かけてみませんか。

担当者からの講座報告

健康と環境を考える講座

5月15日～6月19日 全6回

今もっと知りたい「食」!

ひばりが丘公民館にて実施



食べることが生きること。でも何をどう選べばいい?それを見極める目を養うというねらいがありました。6人の講師から「食」を通して健康・環境・国際問題まで幅広く学び、食物アレルギーやフードマイレージなどについても理解を深めました。「私達の選ぶという行動が明日の日本を作っていく」と日本の農業と世界の環境のために買う物一つから考えていきたい!などの感想がありました。
フードマイレージ(トン・キロメートル)
= 食料の輸入手数×運搬距離